

## 新設小学校における環境教育の考え方

新設小学校はゼロエネルギー化を図る小学校であるため、環境教育にそれらの技術等を活用し、特徴ある環境教育の実現を目的とするものである。

特には以下の4点を踏まえる

- ① 太陽光発電の発電量モニターではなく、建物のエネルギー使用状況と太陽光発電の発電状況の双方により、リアルタイムな建物のゼロエネルギー化状況が見えるようにし、小学校のエネルギー消費構造の視覚的理解を図る。

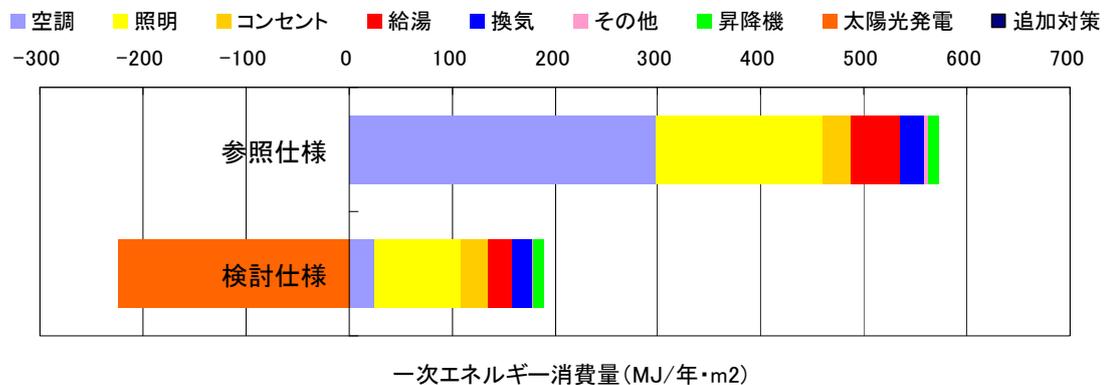


図1 ゼロエネルギー化モニターでの表示イメージ

- ② 主要な空間におけるエネルギー消費量の「見える化」を図り、児童が季節や活動の違いにより、エネルギー消費量が変わるのかを体感できるようにする。



図2 普通教室単位での電力消費量の計測と「見える化」事例  
(豊田市立土橋小学校)

③ 専門家による学校の環境配慮に関する取り組みの分析・発表

エネルギー使用量の「見える化」だけでなく、適切なデータ収集を行い、運用開始後に専門家による分析等が可能な状況を確認する。

また、これらの分析により、導入された環境配慮技術が適切に稼働しているかを検証し、その状況を教職員、児童と共有、今後の対策の方針や具体的な取り組み方針を関係者で共有できるような体制の整備を検討する。

④ 環境配慮技術の見える化およびパンフレットの作成

各環境配慮技術の効果や稼働状況が目で見えるような工夫を積極的に行う。

また、これらの取り組みや教職員、児童が取り組むべき行動などをパンフレットやマニュアルとして整理し、内部関係者の取り組みの持続性の確保と対外的な啓発効果を図る。



図3 環境パンフレット  
(豊田市立土橋小学校)



図4 自然換気窓  
(杉並区立天沼小学校)